

# CAT3-第8章 CATはどの程度分析的ですか?

© 2024.08.30

## 8 CAT はどの程度分析的ですか?

ティム・レイトンとアンソニー・ライルの対談

認知分析療法は、精神分析に対する恩義を認め、それと区別することに常に関心を持ってきました。CAT が自らを分析的と呼ぶ権利に異議を唱えたティム・レイトンのエッセイは、A.R. との議論のきっかけとなりました。そしてT.L.後者は主に依存症の分野で活動しており、CAT認定心理療法士の第一世代の一人です。以下は、会話の記録を編集したものです。

T.L.初めて CAT に出会ったとき、その統合に興味がありました。当時、私は精神分析に非常に興味があり（今でも興味はありますが）、精神分析のレンズを通して CAT を見ました。CAT が実際にどのように機能するかを詳しく知るにつれて、CAT は非常に認知的で、特に分析的ではないように見え始めました。私には、精神分析に特徴的であろうもののほとんどが排除されているか、弱められているように見えました。分析的な意味での解釈や衝動の理論は存在せず、精神分析で起こるような階層化もありませんでした。時間が経つにつれて、分析によって象徴化と置き換えの層がどんどん明らかになり、治療の初期段階で現れたイメージが、後でまったく異なるものに変化する可能性があります。これらすべての機能を主張するつもりはありませんでしたが、非常に重要な違いがあるように思えました。また、CAT モデルは、「ボトムアップ」理論というよりはむしろ「トップダウン」理論であると私は感じました。

A.R.これで17点です！まず最初に言うておきますが、私は認知療法そのものの経験がありませんでした。私の経験は分析に基づいたセラピーでした。しかし、ケリーのグリッドを使って作業し、その後認知派の著者を読んで、彼らが私がやっていること、つまり重要なことへの追加を示唆していると感じました。しかし、私は、CAT が分析の世界から発達理論を大幅に取り出している限り、CAT は常に精神分析に根ざしていると認識しています。分析理論の一部には反対の意見もありますが、発達が人格構造に及ぼす影響は非常に重要な問題であるように私には思われます。また、転移とその使用の全体的な理解は、CAT の非常に中心的なものです（そして最近では、CBT の脚注に追加）は、もう 1 つの主要な分析貢献です。その意味では、CAT の「A」は常にその役割を果たしています。CAT の初期段階以来、かなり単純な認知要素に関する議論ではなく、CAT と精神分析の類似点と相違点を明確にすることが中心でした。

T.L.私が特に興味を持っているのは、このモデルが精神分析にどのような影響を与えているのか、そしてそれがどのような点でそれ自体を区別しているのかを整理しようとする事です。この質問には 2 つの側面があります。1 つは「CAT 理論の何が分析的ですか?」というものです。もう 1 つは「CAT 実践の分析とは何ですか?」です。CAT は、情報処理と、評価、信念、行動の関係に関する限り、明らかに認知療法です。さまざまな方法で自己維持される反復的な手順の観点から、感情的および行動的問題を理解します。それは、たとえば、ベックの認知療法モデルとは異なります。感情を含めたり、自滅的な信念の幼少期の起源に注意を払ったりするという点ではあまりありませんが（認知療法士が感情を無視しているという非難は不公平です）、よ

り豊かで、より豊かな感情を仮定する点で異なります。認知処理をより完全に説明し、セラピストと患者の関係をより重視します。

CAT 理論の「分析」要素に関する限り、主な関心事は、無意識の物質のアクセスしやすさと性質に関するものです。重要と思われるその他の問題としては、人格の発達において、何が外から来るのか、何が生得的なのか、何が行動を促すのか、ということです。古典的な精神分析では、抑圧、つまり願望が意識に到達するのを妨げる方法に大きな重点が置かれています。実践に関して言えば、精神分析治療の特別な条件は抵抗をすり減らし、禁断の内容を明るみに出すことができると考えられている。これには時間がかかりますが、精神分析の事例研究から明らかなように、象徴形成の複雑さのため、凝縮や置き換えなどのメカニズムを通じて、無意識の物質の多くは複数の意味を持ち、分析の初期部分で現れるものは、後で到達するより深い層とはまったく異なります。これが、一部の分析が非常に長引く理由の 1 つです。

もちろん、CAT は全く異なる方法で進みます。あなたは無意識の精神活動について異なる見解を持っており、したがって抑圧についても異なる見解を持っているように私には思えます。

A.R.それは全くその通りです。「無意識」に関しては、意識システムと無意識システムの二極化は役に立たないと思います。意識というのは驚くべきものです。精神活動のほとんどは、さまざまな理由から内省することができません。私は、動的な無意識を、ある種の（部分的に沈黙した）代替音声として見なします。これは、人が利用できる内なる対話の側面と似ていますが、失言や脱落、そして私たちが意識的に責任を受け入れていない動機付けられた行為からのみ推測されるものです。CAT では手順に重点が置かれています。私たちが知っているのは、精神的、行動的、環境的出来事の複雑なシーケンスですが、私たちはそれらについて部分的にしか気づいていません。一部の手順は、明らかにこの沈黙された部分の利益を表現または奉仕しています。しかし、制定されたすべての手順を記述することができます。患者が対処しなければならない問題が、患者自身やセラピストを含む他者への接し方にはっきりと現れるのではなく、誤った、過度に凝縮された、または過度に決定された手がかりの背後に隠蔽されていることがどのくらいの頻度で、どの程度の範囲にあるのか、私にはわかりません。 。深層心理の深層にあるものは、まったく無関係である可能性があります。そこで明らかになったものは、分析者が支持する理論に異様に依存しているように思えます。しかし、もちろん、そのプロセスによって独自の理解が得られることもあります。時々！

T.L.他者との相互作用の中で発達する人格の構造という考え方は、CAT を分析理論と結びつけると同時に、相違点を明らかにするようです。精神分析理論はこの段階における内部対象表象の性質について理論化しており、特にクライン派は内部対象世界は導入によって確立され、幼児の闘争は主に敵対勢力による攻撃の幻想としての窮乏の経験に関するものであると主張している（迫害不安）。この戦いにおける最も重要な内部オブジェクトは、幼児がそれに対して感じる攻撃性と貪欲さをそこに投影する「悪い胸」です。このエスカレートするシナリオは、理想化された「良い乳房」によってもたらされる幻覚的満足感によってある程度打ち消されます。この理論は非常に複雑ですが、主に内部ドラマの説明です。もちろん、クラインは、外部の出来事がまったく影響を与えないとは主張しません。彼女は、外部の出来事が性欲と攻撃性の衝動の間のバランスを崩すのに役立つ可能性があるとして述べています。しかし、クライン理論の明確な含意は、この段階での人格発達の損傷は、生来の破壊衝動が「強すぎる」こと、あるいは「良い乳房」の安全なカテキシスのための不十分な能

力によるものである、ということである。分割は、進行中の精神内戦から良いオブジェクトを守るための防御戦略とみなされます。クライン派の説明における母への愛の必要性は、一次不安を軽減する必要性によって引き起こされます。これは、母親との絆が第一であり、必要な絆に対するフラストレーションが多すぎると不安が生じると主張する愛着理論家がとった立場とは正反対です。私の理解によれば、CATは愛着理論に近いものであり、実際、あなたとジョン・ボウルビィは両方とも、あなたの精神障害患者の非常に多くがネグレクト、剥奪、虐待の歴史に苦しんできたことを強調しており、あなたはそれを明らかに大人としての彼らの困難と結びつけています。一部の分析理論がこの関連性の否定を維持するのに役立つことに怒りを表明しています。

A.R.はい。私は、幼少期の内的世界が不安と生来の破壊性に支配されているというモデルを受け入れません。愛着理論から派生した研究、特に「関係の作業モデル」の伝達に関する研究は、CATのアイデアに非常に近いようです。

T.L.心の中でオブジェクトの関係がどのように表現されるのか、そして空想の性質についてはまだ疑問が残っています。あなたは、オブジェクト関係理論の「悪魔学」の側面を明確に拒否しましたが、関係のオブジェクト由来の極との同一視が行われることが相互役割レパトリーの発展の中心です。精神分析理論における同一化は、最も原始的なレベルでの組み込み導入から、エディプス・コンプレックスを解決するために去勢される可能性のある父親と少年が同一化し、超自我を形成すること、アンナ・フロイトの「自己同一化」という自我の防衛に至るまで、さまざまな方法で説明される。『侵略者』。

A.R.識別、組み込み、導入はすべてこのアイデアに含まれています。人は主に相互的な役割のパターンを学習します。どちらかの極が制定される可能性があり、侵略者との同一化はその一例です。実際、ジョセフ・サンドラーも何年も前に多かれ少なかれ同じことを言っていました。

T.L.あなたは、この質問に対するCATの回答の出発点として、「子供が今日大人と一緒にしていることは、明日は自分でするだろう」というヴィゴツキーの発言を提供しました。しかし、ヴィゴツキーは、スキルと能力の獲得について言及していたと私は信じています。幼少期の思考は他者との対話から始まり、その後自己との対話になり、内面化された思考として「地下に潜っていく」という彼の考えと組み合わせると、ヴィゴツキーの発言は同一化理論の基礎となる可能性がある。

あなたはヴィゴツキーの発言を拡張して、「大人が今日知ることを子供に許さないことは、子供が明日知ることを許さないでしょう」と述べています。私の理解では、あなたは人間が文化的に与えられたものによって制限されると言っているのではありません。子どもが必要としているのは、子どもが自分の経験を振り返り、意味を生み出すのを助けることに興味を持つ大人です。これが欠如または不十分であると、手続き上の制限が生じます。知ることを許されないという考え方は、精神分析と非常に明確に結びついています。親の禁止は無意識に行われることが多く、何らかの大惨事への恐怖によって無意識のままに保たれます。

A.R.私が言いたいのは、人は幼少期の特定の文化によって形成され、制限されるということです。注意や言葉が与えられないことによって、人は自分の経験を知ることが許されない、あるいは、自分の経験を振り返る

ことが許されないことがある。これらを与えられない場合は、親自身の手続きの結果となり、同様に制限される場合があります。結局のところ、私たちの経験や行動の範囲を決定するのは、言葉以前のやり取りや言語を通じて伝えられる意味です。

-----

T.L.何が正しいのか見ていきたいと思います。最適な開発という概念はありますか?古典的な形式のフロイト理論は、有機体とその衝動に関する理論です。意識は、欲求を満たすための要求と現実の要求の間を仲介するために、自我の形成の一部として生じます。転移は性欲カテックスの再分配として説明されます。CATでは、生得的な衝動は認められていますが、特に意識のある被験者が他の人々と特定の種類の関係を経験した場合には、これらを管理できる可能性があると考えられています。私の見解では、これはCATを単なる認知的ではなく分析的であるとみなす正当化の1つです。私には、それはフェアバーン、ガントリップ、ウィニコット、そしてかなり異なるアプローチのジョン・ボウルビによって例示される精神分析の系統の発展であるように思えます。もちろん、CATをオブジェクト関係理論に明確に関連付けます。私は、これらのアナリストには理論的だけでなく倫理的にも関連性があると考えています。

A.R.私はそれらの類似点には喜んで同意しますし、「性欲カテックスの再分配」のような概念は間違いなく捨てます。しかし、私は生物学的要素よりも社会文化的要素にさらに重点を置きます。

T.L.それはボウルビーよりもウィニコットに近いように思えます。ウィニコットはボウルビが生物学的要因を強調することにまったく乗り気ではなかった。彼は人間の行動を説明する上で動物行動学は行き止まりだと感じていた。しかし、おそらく後で生物学に戻ることができるでしょう。私が話したかったことの1つは、CATの中心となる目的指向のアクションです。古典的な精神分析は、活動の本当の意味は本能的な衝動を満足させようとするものであり、ある意味ではこれ以上ないほど純粋な目的に向けた行動であるという考えを発展させた。目的は無意識であり、通常は嚴重に隠蔽されています。しかし、戦後の精神分析では、言語の役割、そしてエディプスの三角形とは対照的な母親と赤ちゃんの関係にもますます関心が集まっています。

A.R.私にとって、意味のあるとは、人間的、文化に基づいた、個人的に感じられる重要性が投資されたものであり、本能とは大きく異なります。手続き的シーケンスモデルが意図的な行動を強調した理由の一部は、人間の行動についての非常に不適切な説明であると常々思っていた衝動理論に対する抗議でした。明らかに、私たちは皆、衝動を持っています。それは、ある意味では当然のことと考えられています。しかし、人間の違いについてはあまり説明されていません。なぜなら、人間は文化的に変容し、変容し、非常に多くの異なる方法で表現されているからです。非常に興味深く複雑なのは、ドライブそのものではなく、その表現です。

T.L.私の考えでは、フロイトはあなたの今言ったことに異論はないと思いますが、これはCATと分析の決定的な違いの領域だと思います。精神分析理論では、あなたが説明した複雑さは衝動に還元できると考えられています。セラピーは、その衝動を代表する願望を意識化することを目的としていますが、本能は迷路のように移り変わるため、一般に長い時間がかかります。フロイトは、文明の複雑さはこの方法で説明できるとさえ感じました。CATはこれを拒否していますが、ドライブの性質について何か言うことはあるのでしょうか?

A.R.それはあなたがそれをどのように置くかによって異なります。もちろん人間には破壊する能力があります。もしあなたが、私たちのすべてが生得的なものに違いないと言うなら、私たちは生得的に破壊的であるということになりますが、それではなぜ文化が存在してきたのか、なぜ攻撃性が害を及ぼさない形に変えられた人々がいるのかなどの興味深いことが説明されません。それが栄光を受ける他の人たちもいます。私たちが理解する必要があるのは、こうした文化の違いと患者の個人史の違いの影響です。文化の形成は、私たちの性質の表現を許可し、折り曲げ、拡大し、複雑にするだけでなく、制限します。

T.L.例えばチョムスキーは、文化表現における類似点は差異よりもはるかに顕著に見えると指摘しており、文化は生来の言語構造などのパラメータによって形成され、制約されることが示唆されている。文化や歴史を超えて、人類がほぼ同様の、わかりやすい方法で考え、感じ、行動しているように見えることは確かに驚くべきことです。

A.R.大まかには似ていますが、大きく異なります。人類は生物学的に500万年進化してきましたが、言語は20万年前から存在していると人々は考えています。書き言葉は約5000年前に登場しました。私と20万年前、5000年前、100年前に生まれた人との違いは生物学的なものではなく、文化的なものです。必ずしも改善したとは言えませんが、確実に複雑になっており、それは美点だと私は考えています。私も、あなたも、そして私たちの周りの人々は、ユダヤ教とキリスト教の文化などを備えた世界のこの特定の地域の創造物です。私たちは皆、基本的に同じインプットを受けてきたため、非常に似ています。

T.L.私もそれに同意しますが、私にとって印象的なのは、特に人間の基本的な動機の点で、表面的には大きな違いがあるにもかかわらず、文化がいかに似ているかということです。今世紀に入って、文化の違いを理解するために多くの取り組みが行われてきましたが、この点を理解するのは非常に難しいと感じています。古典的なアテネや古代シュメールでさえ目が覚めて、人々がどのように動いているかをすぐに理解できるように感じます。人々はそれほど変わりません。家族構成は非常に狭い範囲内で変化します。他の文化の文学は通常、驚くほど理解できます。

A.R.私たちはアクセス可能なものを読む傾向があると思います。私たちが社会的動物になると、幼児の長期にわたる依存や性的役割の分化など、すべての社会が同じ問題に対処しなければならなかったと言えるでしょう。つまり、古代シュメールであろうとハックニーであろうと、私たちは皆、成長する中で同じような問題を抱えています。得られる遺伝子のパッケージが非常に似ているというだけではありません。しかし、私たちの患者の問題は基本的に彼らの詳細な個人的経験の観点から説明可能であり、彼らが世界の複雑さをうまく乗り越えるか下手かが、初期の経験が彼らをどのように形作ってきたかを示す尺度であるように私には思えます。

T.L.私はあなたからそれほど遠く離れているとは思わないので、これについてはあまり追求したくありません。私にとって、精神分析は、人々が互いにどのように行動するか、またどのように仕事や遊びをするかについて考える方法を提供するのにかなり優れています。しかし、歴史問題に対処しようとするときはうまくいきません。この明確な例は、フロイトが原初の群れと最初の父親が息子たちに殺されたことについて推測を始めたところですが、彼がこれをダーウィンから得たものだとは思いますが、これはロマンチックな19世紀の神話

作りの古典的な作品のようです。精神分析が幼児期の出来事を再構築するときに、同じ問題が時々生じると思います。メラニー・クラインに関してあなたが指摘した点は、彼女が主張していることが実際に起こったという証拠は実際には存在しないということです。

A.R. 過去 10 年間の研究の多くと、たとえばドリュー・ウェスティンやその他の人々の批判的な著作は、幼少期の出来事の順序に関するフロイトの公式説明にかなりの疑問を投げかけていると思います。

T.L. それは重要ですか？

A.R. はい、そうだと思います。長期にわたる分析の結果、イドが発見したものとは何でしょうか？これはゆっくりと層を剥がして開発の初期段階と接触する深さに到達しているのでしょうか、それとも分析者が特定の種類の解釈と理解を入れる非常に奇妙な関係を作り出しているのでしょうか？この記憶にない経験のカプセルに接触することで誰もが救われるという信念はどこから来るのでしょうか？それを理解できるとは決して思いませんし、理解しようとしているうちに、実際には、特に役に立つかもしれないし、そうでないかもしれない新しい神話を作り上げているかもしれません。しかし、理論によれば、その旅以外の何ものにも、それが行すべきことは何もできないということになります。他にも気分が良くなったり、症状が消えたりすることもあります。それは周延的な懸念事項とみなされます。自分自身を理解するためには、誰もがこの非常に奇妙な関係を持たなければならないという考えは、文化一般に対する私の見方に非常に反対です。教育とは全体的に後戻りすることではなく、継続することです。

T.L. それは私にフロイトの理論そのものの展開を思い出させます。原精神分析はすべて、トラウマ的な記憶に立ち戻り、反動を生み出すことでした。彼が願いと願いを解釈する必要性、束縛されたリビドーの再分配を発見したとき、それは多かれ少なかれ放棄されるか、少なくとも脇に追いやられました。その後、彼は転移に大きな関心を抱くようになり、この時点で精神分析はより CAT に似てきたと思います。

A.R. もちろんその逆です！

T.L. しかし、精神分析が、何らかの方法で解決される特定の種類の関係の繰り返しとして理解されるとき、私たちの観点からははるかに興味深いです。

A.R. それが、いろいろな意味で最も大きな貢献だったと思います。しかし、初期段階への必然的後退の理論と関連しており、それらの段階はエディプス・コンプレックスの3から5からクライン的幻想の衝突の0から1に押し戻されているため、この7年間の全く実行不可能な治療法が生み出された。ソファの上で、それは人々が問題を解決してほしいというニーズとはほとんど関係がないように私には思えます。私はいくつかの非常に魅力的な作品を制作しましたが、多くの作品は、生きている人間の人生についてではなく、その特異なプロセスについてのものです。発達理論は進化するにつれて、ますます非現実的な治療の必要性和結びついていきます。それに対する私のイライラが、CAT 開発の大きな推進力となりました。心理療法が人々にとって良いものであれば、それを必要とする人々が利用できるようにすべきだと私は信じています。実際にそうなったことはありませんが、経済的に実現可能であれば、そうなる可能性が高くなります。

-----

T.L. CAT理論に戻りましょうか。PSMの観点からオブジェクト関係は何を意味しますか?オリジナルのPSMは私には特に精神分析的とは思えませんでした。それは単純な認知モデルでした。

A.R. PSMは意図的な行為に重点を置いており、中継地点でした。実際、それを擁護するために、評価と評価の段階では、あなたの人生全体の経験、異なる価値観、目的間の対立などが持ち込まれる可能性があります。潜在的には、そのサイクルの中に精神分析全体を組み込むことができるでしょう。しかし、それはアクションを通じたガイド付きツアーのように少し読みすぎています。

T.L.精神分析の世界やその周辺に、あなたと同じような反対意見を持ち、強力な心理療法を開発した人々が時々います。私はサリバンとスッティ、フェレンツイ、フェアバーン、フランツ・アレクサンダーのことを考えていますが、彼らは皆フロイトの影に立っています。サッティはおそらくそうではないでしょう…

A.R.彼らの多くは影に隠れていたわけではなく、体制によって埋もれてしまったのです。

T.L.私がそれらについて言及する理由は、オブジェクト関係理論とPSORMの関係を議論するためです。たとえば、フェアバーンの内なる世界のモデルを見ると、依然として攻撃的な力と抑圧を伴う精神経済理論が見られます。メタ心理学を保持したいという強迫観念があるようですが、それはあまり役に立たないとあなたが言っていたと思います。

A.R.私はメタ心理学が役立つとは思いませんが、理論は有用で必要だと思いますが、理論は既知のことと互換性があるべきです。これらすべての理論の問題点は、それらが分析対象者の発話と照らし合わせてチェックされるだけであり、発達理論全体を構築するためのあまり優れたデータセットではないことです。多くの精神分析者がそのことに気づき、ここ数年で観察データに対してよりオープンになりつつあると思います。

T.L.それは確かに進歩のように思えます。しかし、たとえそれが私たちが話している種類のデータによって裏付けられていないとしても、CATが除外しているものについてはまだいくらかの困難があります。フロイト以降の精神分析は、内部構造が環境との相互作用の中で発達することを強調していますが、分析は葛藤とその葛藤を管理するメカニズムに関係しているため、強調されているのは精神内です。クライニアン伝統では、母親は投影の容器として大きな役割を果たしており、まさに赤ちゃんの精神的な延長として機能しています。ここでは、空想や空想などのアイデアが役立つだけでなく、不可欠であるように見えます。

A.R.対人関係と心の内を結びつけることに重点を置く必要があると思います。奇妙なことに、クラインは対象関係を中心に据えながらも、実際の関係にはほとんど関心を示さなかった。

T.L.いや、そうではないかもしれないが、彼女の影響を受けた人々、特にウニコットは確かに影響を受けた。彼は、物体が空想の攻撃を乗り越えて現実となり、関係を築くことができるという点に到達するために、「物体使用」の概念を開発しました。トランジションスペースとプレイ能力についての彼のアイデアは、私に

とって非常に重要であるように思えます。私が言いたいのは、これは赤ちゃんがどのように人間へと成長していくのかについての、異なる種類の説明であるということです。「平均的な期待可能な環境」のようなフレーズが使用される場合、「何が期待されるのか」を理解する必要があります。

A.R.ご存知のとおり、ミカエル・リーマンは、ウィニコットを他のアナリストよりも CAT に近い位置に置いています。それは、移行オブジェクトが人々と内部空間との間の空間を媒介し、そこに記号の役割があると考えたからです。また、私たちのほとんどは、クライン派の解釈に見られるヒステリックなブラックな雰囲気はまったくなく、患者について語るウィニコットの人間的なスタイルを好むでしょう。「平均的な期待できる環境」と「十分な母親」は、普通のこと、平凡なことを見つける方法でした。

T.L. CAT 用語での「オブジェクト関係」は、スターンの「一般化された相互作用の表現」に近いものを意味すると言うのは公平でしょうか？

A.R. Stern の RIG は明らかに CAT の RRP に似ています。CAT 版のオブジェクト関係理論では、これらの相互作用パターンの獲得に焦点が当てられています。世界、自己、他者については、思考、感情、欲望、行動、コミュニケーションが切り離せない初期の人間関係の文脈で学びます。私たちは関係パターンをオブジェクト表現に適用しません。私の見解では、私たちは RRP に統合された応答のスペクトルの観点から他者を経験します。この部門は心理学者の部門であり、主題の部門ではありません。

T.L.少しヴィゴツキーに戻ると、彼の考えは、子供と親と一緒に物事を行い、大人が解説するというものでした。子供は解説を引き継ぎ、一人でいるときはそれを自分の活動のガイドとして使用します。解説は最初は大声で話されますが、やがて内にこもって沈黙、あるいは意識を失ってしまうこともあります。これは考えられます。

A.R.それは単なる解説ではなく、大人が提供する時間、文脈、コミュニケーションを通じて活動を形成し、構造化するものです。私たちはこれらの初期のツールや言葉、サインの提供を保育者に依存していますが、子供たちはすぐに保育者と一緒に使用するためのサインも発明し始めます。兆候はまず人々の間にあり、次に人々の心の中にあります。

T.L.この記号を生成する能力には、生まれつき備わった何かがあると私は思います。赤ちゃんと母親の間の言葉以前の関係では、サインの交換が非常に重要です…

A.R.生得的なものは、意味を与えられることによって記号になります。ヴィゴツキーに関するミカエル・リーマンの論文では、幼児の指さしについて論じている。子供が何かを掴もうとするとき、それは単純な物理的行為であり、あたかもそれが意図であるかのように反応する。この意味で、意図は、親と子の間で形成され、名前が付けられる行為によって形成されるようになります。

-----

T.L.そうですね、私たちの会話におけるウィニコットとヴィゴツキーの並置は、存在することの強調と行うことの強調の対比を示しているように私には思えます。そのつながりはおそらく創造性です。記号の理論には、個人の違いを生み出すだけでなく、既存の文化に参加することを学ぶ余地があるように思えます。

A.R.創造性という言葉は危険な言葉です。私たちは皆、それを美德と同じように支持していますが、神秘的なものを好みます。「行うこと」と「存在すること」のコントラストに関して、それをどこに置くのか、私には明確ではありません。存在とは、おそらく目標を追求したり尻尾をあまり積極的に追いかけたりせずに、自己認識することです。それとも、宥めるような偽りの自分を脱ぎ捨てますか？しかし、創造性、つまり何か新しいものを生み出すことは、活動から生まれます。それには、既存の形式や意味の変換や再結合が含まれますが、まれに新しい形式や意味の発明も含まれます。しかし、新しいものであっても既存のものと密接に関連しており、理解しやすくなければなりません。創造性が無意識から現れることが多いと思われる限り、これは、無意識は意識と同じように社会的に決定されているという私の見解を裏付けるものになります。記号理論は個人差を許容します。つまり、個人が持つ文化的継承が広ければ広いほど、その人が豊かで新しい洞察を得る可能性は大きくなります。そして、子供時代がそれを可能にしていれば。

T.L.そうですね、これについては両思いです。あなたの言うことにはほとんど同意しますが、完全に同意するわけではありません。社会的マトリックスが現実との特殊な関係を妨げ、それを超えて直接的で個人的な生きた経験という感情的な空間に到達することが可能であるという感覚があると思います。あなたはこれが社会的に構築された幻想だとお考えだと思いますが、美学や精神的なものが完全に社会的記号論に帰着するかどうかはわかりません。また、外界における創造性、それはもちろん「活動」であるが、それは内なる創造性に依存している、あるいはそれを代替している、ということも言いたい。そして、この創造的な機能は、もちろん、ある種の思考を必要としますが、概念以前に生じるものだと思います。これは、アイデア、印象、感情、さまざまな種類の刺激を含む「ベータ要素」を個人的なものに加工できるようにする、ビオンの「アルファ機能」のアイデアに非常に近いです。このようにして、アイデアを個人的なものにすることなく送信することができます。しかし、おそらくCAT理論にもっと直接関係する話に移りたいと思います。

私は、人が世界でうまく航行するには、自己との一種の4つの関係が必要であると信じています。まず、自己鎮静機能があり、抱きしめられていると感じてリラックスして眠ることができるという安心感に基づく関係です。第二に、「自分はどこにいるのか？」という自己監視機能があります。「状況はどうですか？」「私はどう感じますか？」'私に何ができる？'第三に、「さあ、やってみろ」という自己主張または自己励ましの機能があります。そして最後に、意図性があります。「なぜ自分がやっているのか？」「それをする事で何を達成したいのか？」これらはすべて重要であり、異なっているように見えますが、人々がなぜ行動するのか、どのように関係しているのかについて、より完全な理論が必要な場合は、必ずしもコンプライアンスに従う必要はありませんが、その文化と有効な関係を築く能力もあります。彼らが物事についてどう感じているか、私たちはこれらすべての側面をしっかりと把握しておく必要があります。

A.R.はい、その通りですが、上記のすべてを検討できるようにするための自己反省能力を追加したいと思います。この点において、私たちは動物とはまったく異なります。認知派や分析派の作家の多くは、私たちを生

物学的な連続体の上にあると考えたがりますが、私たちが文化的に形作られた象徴的な世界の中でほぼ完全に生きているという点で、人間と動物の間には根本的な違いがあると思います。

T.L.これは、象徴秩序への参入が根本的で修復不可能な分裂を生み出すという精神分析、特にラカン派の伝統における考え方と結びついている。ラカンは、他者との関係における自己の発展を、良形で創造的なプロセスとしてではなく、欠如と喪失の物語に基づいたものとみなしたでしょう。子どもと親の関係は、子どもが相手の欲求に応えるときの一連の疎外的な同一化で構成されます。全体性の感覚は、幻想、つまり鏡に映ったイメージに基づいています。

A.R.私の即座の反応は、もしそうでなかったら、私たちはどうなるのでしょうか？私たちは花を咲かせたいのに、過剰に栽培され、剪定され、歪められた種子にすぎないのでしょうか？私たちはそうではないと思います。私たちは、自分の生物学と世話人によって形成され、最終的には他者の鏡の中で形成された自己であることを認めざるを得ないように思えます。「鏡」だけが誤解を招きます。親は子供の経験を認めて反映し、意味の示唆と対処方法の両方を含む反応を伝えます。これはビオンの「代謝」よりも明確な説明だと思います。このような反省がなければ、子どもは反省することができません。私たちは言語を獲得した時点から、内的に対話を行っています。私たちは、「私たちが経験によって形成され、経験によって形成されなければならないのは、なんと残念なことだろう」とは言えません。一つ言えることは、十分に複雑な会話が頭の中で進行すると、会話の条件を検討し始めることができるということです。したがって、その意識は、私たちに与えられたもの以外の選択を可能にする唯一のツールです。しかし、私たちが反省する方法や選択をする方法も私たちに合わせて構造化されているため、それは複雑です。私が行っている議論は、単に私が育った文化の議論に過ぎないのではないかと考えざるを得ません。エッジでの知的生活とは、こうした構造に疑問を投げかけることであり、そこには常に同調と抑圧だけでなく、抗議のプロセスも入り込んでくる。しかし、それは起こるべきではなかったと言って対処することはできません。あなたは、それからある程度の独立性を得るためにどれだけ速く、そしてどこまで前進できるかを見てそれに対処します。

T.L.私はこの議論には若干の異論があります。私は自己の発達が対話のプロセスであることを全面的に受け入れます。しかし、重要なのは生物学ではなく文化であると、あなたは苦勞して言いました。生物学的所与を認めると、それらは無関係であるとして括弧に入れられてしまいます。しかし、これは彫刻家が素材の性質を無視しているようなものです。形は意味を持ちますが、それは素材との関係においてのみです。私は、発達のプロセスは非常に重要であり、そこにはあなたが説明した知的能力の達成以外にも多くのことが含まれると信じています。実際、私は、小児期でも心理療法でも、うまくいかない可能性のあることの1つは、これらの能力の早熟な達成であるのではないかと心配しています。早熟な子供の精神的剥奪に対する関心が高まっています。あたかも母親としての機能が子ども自身の心によって提供されているかのように思えるかもしれません。ウィニコットは確かに、子供がこのレベルのパフォーマンスを強制されたら、そこで起こっているのは偽りの自己の創造であり、その下に埋もれているのはおそらくこのような刺激を望んでいない剥奪された真の自己である、と言うだろう。ある種の望ましい発達スケジュールは確かに存在するようで、必要とされる種類の大人を生み出すために、おそらく自然選択の方法で子育ての実践が変更されるという意味を除いて、それが完全に文化的なものであるとは思えません。特定の社会によって、私たちはこれに起因する個人的な苦痛に対処して

います。CATのような短期間のセラピーは、世界の早熟な知的管理への推進の繰り返しを生み出す危険性があると私は思います。

A.R.私は知的能力の達成だけを議論したわけではないと思います。内省を達成するには、自己へのアクセスと、自己について知り、考える方法が必要です。それは偽りの自己開発ではありません。私が生物学を「括弧で囲む」のは、生物学が治療に関係する違いを理解するのにほとんど貢献しないからです。人が得られる手順のレパートリーは、人がそれをうまく管理できるように、その人が住んでいる世界に十分に一致している必要があります。あなたが自分の立場を知っている非常に構造化された社会に住んでいる場合（たとえば、封建領地で農奴として生まれた場合）、自分に何が期待されているかはかなり明確であり、おそらく、自分自身を深く反省する必要はありません。最後まで自分の人生を生きてください。現代世界の特徴の1つは、そのように外から規定された人生を送っている人がほとんどいないことです。そのため、柔軟性と内省の要求が以前よりもはるかに高く、人格の完全性に対する負担が大きくなっています。もはるかに大きいです。それは文化の変化であり、おそらく歴史はその方向に進んできたでしょう。要約すると、私が文化を重視するのは、(a) それはそれに値すると思うから、そして (b) 文化が認知科学と精神分析の両方の説明から除外されているからです。人々は今でも、あたかも私たちが生物学的進化の集合体であるかのように書いています。もちろん、私たちは動物です。そのことを神に感謝します。しかし、私たちは人間という動物です。私たちの体さえも、文化的に学んだことを通じて私たちに知られています。

-----

T.L.私が興味を持っているのは、一般的な人間の能力ではなく、それが先天的なものであるかどうかではありませんが、人間の能力の範囲は単純に驚くべきものであり、学習理論や心理学が生み出した他の理論によっては説明できないと言えます。私は、治療の出会いにおいて確実な変化を生み出すために何を考慮しなければならないかに興味があります。残念なことに、精神分析では大部分が、何が効果的かを見つけ出す治療的手順から離れて、それほど重要ではないかもしれない人間の巨大な全体的な心理を作り出す方向に向かう傾向があります。

A.R.しかし、私はそれが重要だと思います、そして私たちの会話の中に大きな地球規模の問題が含まれていませんか？しかし、精神分析はそれをひっくり返したような気がします。精神分析者はあたかも歴史が心理学の創造であるかのように話します。歴史、人類学、社会学、心理学の順だと思います。最後のものはその前例を説明できません。生得的なものや個人の強調、生物学の強調は一種の取り締まりです。ヴォロシノフはフロイト主義批判の中ではっきりとそのことを述べた。彼は、1920年代の精神分析の人気を文化運動として見ていました。それはあなたを世界で起こっていることに対する責任から解放しました。

T.L.ヴォロシノフは、精神分析学の内外で同様のことを言った多くの人の最初の人物にすぎない。社会問題を回避するために精神分析的思考を使用する必要はありません。マルクーゼからマイケル・ラスティンに至るまで、社会変革を促進するために精神分析を利用する勇敢な試みが数多く行われてきました。精神分析を敵として始めて、それを味方にする 것도可能です。たとえば、ジュリエット・ミッチェルは、フェミニストは精神分析を無視するわけにはいかないことを示しました。

A.R.そうですね、精神分析者には社会的責任があり得るし、精神分析は無視できないということには同意せざるを得ません。しかし、精神分析機関にも保守主義と世界に対する自己満足が見られます。

-----

T.L.次に話したい大きな領域が2つあります。これらは、分析に関連する、または分析から派生した治療法に関するあらゆる議論に関係します。これらはセクシュアリティと神話です。フロイトには哲学的思索の傾向があったにもかかわらず、彼は非神秘主義的な性格の傾向があったと思います。また、精神分析がたとえば夢について見る方法については、かなり厳格なところがあります。彼は夢や神話に興味を持っています。それは、夢や神話が初期の過程や精神的真実の偽装表現について明らかにしていると考えているからです。ユングやアドラーなどの反対者は、主にこれらの大きな分野に対する態度においてフロイトとは異なります。ユングは、権力の方が興味深かったアドラーと同様に、セクシュアリティの強調を拒否した。ユングの神話や象徴に対する関心は、フロイトよりもはるかに神秘的な種類のものです。これらの問題についてCATはどのような立場を取っているのでしょうか?CATで、自分の人生の患者との物語を紡ぐとき、これは有益な神話の創造なののでしょうか?CATに貢献した1人か2人の人は、トランスパーソナル心理学のバックグラウンドを持っています。彼らの貢献はCATの「A」部分に属しますか、それとも別のものですか?心理療法が存在するのは単なる人間主義的な環境なののでしょうか?

A.R.私は個人的に神秘的な要素には抵抗がありますが、ヒューマニスティックな要素には好意的です。誰かがこれらとCATの関係性を調査する時期が来ていますが、それは私ではありません。神話に関するより広範な質問に関しては、簡潔に答えると、人間が言うこと、行うこと、信じること、経験することはすべて、それが宗教的カルトや信念体系に体系化されていても、あるいは個人の夢であっても、心理療法に関連するということになるでしょう。それらはすべて人間が生み出したものです。私たちが作ったものは私たちが作ったものです。夢というものは、どんなに理解しても、それが発明されたものであることがわかり、それが私にとって興味深い部分です。文明の神話についても同じことが言えます。しかし、CATでこの領域が歪められたり無視されたりすることを示唆するのは正しいことです。CATの教育では、論理的な選択を行うような行動が強調される傾向がありました。全体として、私たちは、あまり論理的ではなく、個人的な通説が組み込まれていることが多い一連の手順を使用して生活していますが、それらを使用しています。しかし、セラピーでは、それらを見て追跡することが役立ちます。そうすれば、やりたくないことをやめることができるからです。しかし、それは実際には私たちが通常どのように進めているかのモデルではありません。

T.L.絶対に。人間の心の情報処理モデルに対する批判は非常に重要です。私たちは、彼らが説明するような方法で夢を見たり、感じたり、考えたりしているとはとても思えません。

A.R.いいえ、通常は行いませんが、行うことはできます。たとえば、科学的思考は、特定の形式のエラーを回避しようとする非常に独特で、非常に構造化され、ルールに縛られた方法です。私たちは普段の生活について考えていることを知りません。

T.L.それは重要です。論理的構造は、存在の混沌に課せられる事後的な構造です。

A.R.それだけではありません！ CAT の理論は CAT の実践に押し付けられたものではなく、CAT の実践から発展したものです。私たちは理論がなくてもCAT を発明しました。私たちはそれをやり始めました、そしてそれは私たちが「行ったり来たり」プログラムで何をしていたかなどについて考えるようになりました。私たちの行動の結果の評価は、魔法のような制御感覚を与える単なる事後演習ではなく、混乱の中で私たちを導くことができます。

-----

T.L.心理療法ファイルの中で「AS IF」という言葉を強調しているのが印象的です。それは、患者が、あれこれのことが「真実であるかのように」生きているために困難に陥っていることを示唆しています。これらは心理療法ファイルの中で最も重要な単語であるように私には思えます。

A.R.私はこの論理、意味、経験の領域をもっと徹底的に探求したいと思っています。私たちは、CAT で TPP や SDR の形式で論理モデリングを使用し、人々がどのように結果を生み出すかを示します。「AS IF」はその一部であり、異なる仮定や認識を暗示しており、これは経験に照らしてテストされる重要な「科学」です。再定式化レターは、私たちが自分の経験の意味をどのように違って解釈できるかという別の分野に私たちを導きます。私たちがそこでやっていることは、人々が自分の知っていることを別の「感情のレンズ」を通して見るようにすることであり、それは論理とはまったく関係のない意味の解釈です。一度それを理解すると、患者は意味を探求するために使用できるモードが異なります。驚くほどクリエイティブな言葉を使う人もいれば、絵を描く人もいます。結局のところ、人は自分の経験を理解するために、見つけられるあらゆるルートを必要とします。私たちはそのことに関して唯一の専門家ではないと思いますし、そう主張すべきではありません。しかし、個人を理解したいのであれば、自分が理解できる範囲で、その人にとって意味のあることは何でも受け入れる必要があります。

-----

T.L.性的衝動の優位性とそれが対象との関係に及ぼす影響が精神分析の基本的な教義であることは明らかなので、ここでセクシュアリティの領域を探求できるでしょうか。性格形成と症状は心理的発達の観点から説明され、無意識の性的欲求は分析的解釈の主な対象です。

A.R.そうですね、私たちはセクシュアリティが存在することを早い段階から知っていますし、フロイトはその常識を作るのに非常に役立ったと思います。攻撃性は私たちの基本的な構成の一部でもあり、必要な部分であると同時に危険な部分でもあります。私たちには、同様に生まれながらにして非常にポジティブな部分もあります。明らかに、攻撃性の制御とセクシュアリティの形成は、世紀の変わり目のウィーンにおける主要な親の社会的事業であり、かなりの量の偽善と厳しさがありませんでした。フロイトの貢献は、セクシュアリティについての怖ろしさやタブーを軽減し、セクシュアリティについて考えられるようにすることでした。現在、古典的なエディプス神経症はそれほど多くは見られませんが、私たちがそうなるのは、特に魅惑的な母親や特に脅迫的な父親などがいたためです。

T.L.確かに、社会の変化は個人の性格構造の違いを生み出すに違いないと私は信じています。いくつかの変化、特に父権とその権威に対する社会の支持に影響を及ぼす変化は、エディプスの状況に影響を与えるだろう。しかし、私はまた、セクシュアリティに焦点を当てるのが非常に重要であり、今日に関連しているとも考えています。セックスと人間関係は、多くの人にとって主要な問題領域です。あたかも、より流動的で不確実な社会では、ヒステリー症状はあまり一般的ではないが、より原始的なエディプス以前の状況に関連する問題が前面に出ているかのようです。エディプス・コンプレックスとは、個人の精神における社会構造の固定化に関するものです。

現代の心理療法に関するもう1つの重要な分野は、大人による子供への性的虐待とその有害な影響です。周知のとおり、フロイトは治療中に女性患者が忘れていた父親による性的虐待を思い出すことを早くから発見しており、当初はこれがヒステリーの原因だと考えた。その後、彼は次の理由でこの理論を否定しました。虐待がすべてのケースで実際に起こったという合理的な疑いがあるということです。無意識は二次過程の論理的規則に従って機能しないため、外部の出来事の記憶と感情を揺さぶるフィクションを区別することは不可能である。そして、誘惑理論に基づいた治療法は満足のいく解決に至らなかった。私たちは今、小児期の性的虐待についてより良い知識を持っています。それが珍しいことではないことはわかっていますし、誰かが経験した虐待について説明するのを信じない理由はまったくありません。しかし、治療中にこの種の記憶が突然訪れると、少々心配になります。これは、今日、幼少期の虐待のトラウマがほとんどの感情的混乱の根源であるという考えが大きく復活しているためです。この復活はプロのサークルだけでなく、大衆的な側面も持っています。この地域全体が非常に感情的なものであり、そのような気候では間違いが起こります。私自身は、この種の記憶の一部が人為的に作られた可能性や、精神分析が主張しているように、近親相姦的な願望や空想から作られた可能性を排除したくない。フロイト理論の独断的な適用が、患者の経験が信じられない場合にさらなる虐待につながることでよくあったことを認識したいと思う一方で、私たちは皆、子供の頃に無意識に近親相姦の願望を持っているとも思います。主な変数は、その状況における大人の行動です。

A.R.これは、精神力動療法の危険性について私が考えることをもたらしめます。言葉や明確な理解が生まれる前の、人生のかなり早い段階から出来事を解釈すると、患者はあなたの言うことが真実だと思い始めるかもしれません。記憶を植え付ける時間がない短時間のセラピーでは、危険がはるかに少ないと思います。セクシュアリティに関する一般的な問題に戻ると、私はおそらくフロイト主義的というよりはアドラー主義的だと思います。なぜなら、主要な問題は権力と支配の問題であり、セクシュアリティはそれらの問題が争われる主要な土俵の一つであると考えているからです。人間の欲求のモデルは、親密かどうかの問題にあるように思えます。私たちは皆、ある程度親密さを求めますが、別居することも好みます。そして、権力が多かれ少なかれ均衡しているかどうかの制御と服従を中心としています。、残酷ではないので安心できます。私たちの子供時代の大部分は必然的に私たちは比較的無力な立場にいます。したがって、親密さと制御をどのように結びつけるかが中心的な問題となります。最も深刻に支配的な経験の1つは、殴られたり、性的虐待を受けたりすることです。侵入され傷つけられた身体は、無力の強いメッセージを受け取ることになる。

すべての男児が母親と性交し、父親を殺したいかどうかは私にはむしろ疑わしいが、中には明らかにそうする子供もいる。私は性的空想やさまざまな種類の欲望の力に反対するつもりはありませんが、100件の紹介のうち、それが治療上の問題となるのはごくわずかな割合だとも思います。ほとんどの患者は、幼少期に起こ

り、記憶に残っている出来事の影響に対処しています。要するに、エディプスの対立は、分析しなければ大丈夫ではない普遍的な問題ではないと思います。

T.L.あなたは虐待が無力感を強めると言いましたが、私も同感です。また、それが時々力強さとコントロールの感覚を生み出すこともわかりました。その子は「自分には大人がそういう行動をしてしまう何かがある」と感じていたようです。これは、特に子供が触れ合いや注目を楽しんだ場合に、虐待に対する責任感や罪悪感を生み出す可能性があります。私は、自分たちには他人をコントロールできなくさせる何か強力な力があると感じていた虐待を受けた患者を知っています。

A.R.現実の関係は無力なものでした。しかし、性的対象となった子供は、実際に、他者をコントロールしたり、自分自身に復讐したり、使い方を知っている唯一のコインとして、セックスの力を利用することを学ぶかもしれません。

T.L.セクシュアリティについて簡単に説明しました。私がこのことを追求できたのは、人間の精神の中にセックスについて何か特別なもの、根源的なものがあると心から思っているからです。しかし、別のことについてお聞きしたいのですが。非常に多くの人が心の中に深い悪意を持っているようですが、多くの子供たちが批判や無視の風潮の中で育っていることを考えると、それがそれほど奇妙だとは思いません。しかし、実際に異常に見えるのは何で、どのような分析がその証拠を提供するのでしょうか。その説明は、2歳か3歳の子供は自分自身を「悪い」と考える必要があるということです。少女ピグルの分析的治療についてのウィニコットの説明の中で、彼女は自分自身を「悪い」「黒人」であると語り、「ババカー」に乗った「黒いミイラ」と呼ばれる空想の物体によって迫害されている。何が起こったかは、別の赤ちゃんが到着し、彼女が押し出されたことであることは明らかです。彼女は3歳になってもそれを「自分はダメな人間だ」と表現します。母親はウィニコットに手紙を書き、娘が悪い子だと言われたことは一度もないと伝えた。彼女は、一部の子供たちが受ける軽蔑的で軽蔑的な扱いを経験したことはありませんでした。それどころか、両親は心配し、注意を払っています。

A.R.子どもたちは非常に明確な概念的制限を持っていると思いますが、物事を正しく理解する。彼らはより自己中心的で、起こったことに対してより責任を負います。3歳か4歳になると、子供は完全に殺人的な考えを持つことができるようになり、そのような考えを持つべきではないことを知ることができます。その考えに対して実際に罰せられる必要はありません。それは実際にはしていないことに対して責任を負い、願望と行為を区別しません。それが起こり得ることをいったん受け入れてしまえば、私たちは皆、程度の差こそあれ、許されない欲望を抱くことになるため、罪悪感を感じるようになります。罰として去勢すると脅された場合は、より厳しい形でそのような考えを持つこととなります。誤った帰属と、因果関係と責任を理解する子供の能力の限界は、悲しいことに普遍的に見える罪悪感を十分に説明できると思います。

T.L.分析アカウントの半分を受け入れ、半分を拒否しているようです。子どもが物事を誤解し、誤った結論を導き出すことは、分析理論の主要な部分を占めます。たとえば、少女にペニスがないことが、子どもにとってペニスが切断されたことを意味する場合があります。あなたが嫌いなのは、私たちは物事を特定の方法で誤解する傾

向があるという考え、または、ペニス = 便などの「自然な」同等性が存在する無意識の空想の世界を作り出す準備ができてこの世に生まれてきたという考えです。 = 赤ちゃんなど。

A.R.あなたは完全に正しいです - 私はそのほとんどを拒否します。

T.L.これは、精神分析の非常に中心的な活動、つまり解釈の活動に私たちを導きます。結局のところ、精神分析的治療は、自由連想に基づいて患者の無意識の物質を注意深く解釈し、その解釈が正しい場合に生じるであろう抵抗に対処することにある。

A.R.あるいはそれが間違っている場合！私自身の見解は、解釈は危険な行為である、なぜなら解釈された被験者は彼ら自身について知り得ない何かを語るからである。たとえそれが暫定的なものであり、患者にコメントする機会が与えられたとしても、自分の問題に関連すると思われる解釈を与えることは依然として非常に説得力のある行為です。ある人が数年間にわたって週に5回解釈を与えられたとしても、それを受け入れるかどうかはおそらくその真実とはほとんど関係がありません。シュタイナー論文とヨーゼフ論文に対する私の批判は、実際のところ、理論が非常に否定的で暗黙のうちに共謀しているような解釈を生み出しているように思われるやり方に対する私の怒りに基づいていると思います。フロイトの多くの事件についても同じことが言えると思います。彼は明らかに説得力のある通訳でした。それは危険な行為だと思うし、もしやるなら「このように説明されているのかもしれないが、これは仮説です」と言うべきだと思います。私たちは、「私たちはここであなたの無意識の破壊衝動が働いている」とか、「あなたは空想の中で父親の全能のペニスを組み込んだ」と直接言うべきではありません。

説明と共同の再定式化の提供は、実際には包容力があり、それほど不安になるものではありません。なぜなら、私たちは患者が何を知らないのかを知ることに関心がないからです。私たちは患者が自分が知っていることについて考えるための言語を提供しており、それが患者に新しいことを知るきっかけとなることもよくあります。私たちが彼らに影響を与えていないとか、説得力が働いていないと言っているわけではありません。しかし、横たわっている人から見えないところで座って、時々プールに蒸留や解釈を落とし込むことは、非常に強力なことだと思います。図の隣に座って、「それはあなたのやっていることの意味があると思いますか?」と言うのです。または「今日はそのループを回ったことがありますか?」それは非常に異なっており、私にとってそれは人間が学習する通常の方法に近いです。それは共同作業とツールによるものであり、これがヴィゴツキーのモデルであり、敬意を表します。私はそれが常に機能するとは言っていないし、ある種の退行を余儀なくされる人もいるかもしれません。それが何パーセントなのかは分かりません。

T.L.いろいろな解釈があるようです。おそらく、CATIではある種の解釈が安全に行われる可能性があります。精神力動療法で頻繁に行われる転移解釈についてはどうでしょうか?

A.R.これらは、室内でループが発生していると説明する場合など、CATIの中心となります。

T.L.しかしそれは、患者が治療の外で起こったことについて語ることで、そしてそれは外の世界で起こっていることではなく、自分とセラピストの間で起こっていることであると言われることは異なります。

A.R.両方ともあり得ます。起こるすべてが転移というわけではありません。しかし、患者から語られることの多くは、治療中に起こっていること、あるいはその比喻、あるいは例です。しかし、手続きは転勤だけでなく日常生活でも見直すことができます。境界線の患者との最後のセッションで、比喻的な物語の素敵な例がありました。その患者は、来院して、かなり気分が良いと言いました。彼はバスルームのタイルを張り替えていて、上部の小さなパッチを剥がしたところ、壁全体が濡れていたため、すべて剥がさなければならないことに気づきました。彼は壁を剥がして戒めなければなりませんでしたが、怒りを失わなかったので非常に誇りに思っていました。「しかし」と彼は付け加えた、「このセッションの後、やるべきことがまだいくつかある」。解釈する必要がないと思ったので解釈しませんでした。

T.L.不必要に解釈するよりも、無意識に理解される比喻を通して現実について語る方が良い場合があります。この話を聞いて思い出したのは、おとぎ話の重要な役割は、直接話すのはあまりにも不安を刺激するものであるときに、子どもたちの懸念や問題の理解を象徴的な形で伝えることである、というブルーノ・ベッテルハイムの信念です。また、このようにして、子供は好きな話を主張することで、何を話すべきかを選ぶことができます。

A.R.私にとって「無意識に理解されている」ということは、「それは重要な問題や手順の例、例である」ということを意味します。しかし、クライン主義者は、児童分析において迅速かつ直接的に解釈に入ります。

T.L.はい、そしてメラニー・クラインは、この種の適切な解釈の結果、子供の不安が軽減され、より自由に遊ぶことができるようになることを主張しています。

A.R.クラインの身体の比喻は、おそらく子供たちにとって非常に理解しやすいものですが、それが子供の無媒な経験を表すという意味ではありません。CATにおける比喻には異論はありませんが、直接的な説明にも異論はありません。

T.L.あなたが危険であると反対するのは、無意識の願望の解釈ですか？

A.R.いいえ、私はそれらに反対しませんが、無意識の動機は滑りやすい概念だと思います。どのように取り組んでいくかが重要だと思います。私は、SDRでは「殺人的な羨望」と言うよりも、「制御できない感情」という概念を括弧内に入れるのがとても好きです。次に、「明らかに、あなたが入り込むのが難しい何かがあります。おそらく、私たちが子供の頃から集まってきた理由からです。だから、あなたはそこから逃れるためにこれをしているようです。」とすることができます。それは、それらの感情がそこに存在することを許可するようなものです。それが何であるかは推測できますが、性急に具体化するべきではありません。しかし、危険で、激しく、有害で、破壊的で、手に負えない核があると患者が感じていることを受け入れることは、非常に重要です。私はここでのクライン派の意見に同意します。自分のセラピストがその人がどれほど破壊的であるかを理解しているとされると、とても安心します。つまり、SDRは非常にクライン的な楽器なのです。それはそこにあるすべてのものの直接的な表現です。

T.L.核の破壊性を受け入れることの重要性については私も同意します。治療の初めに、セッション中に自分が完全にコントロールできるようになるのではないかと不安だったと患者さんが話してくれたのを覚えています。彼女はセラピーの効果を妨害したり破壊したりしようと何度も試みましたが、彼女の行動の多くが破壊的な怒りに関連していることは明らかでした。私は破壊的な部分を認識し続けることが重要だと思いました、そして彼女もそれが必要だと言っているようでした。私は彼女に彼女の精神状態を描いてもらうように頼みましたが、それらはどれもこれ以上にひどいものでした。良いところは何もなかったし、私がそれを察知して悪いところから逸らしたかもしれないので、彼女は何も良いものを描くことができなかったと思います。そして最終的に、彼女は自分のこの部分に責任を持ち始めましたが、最初にそれを完全に受け入れる必要がありました。

それで、私が疑問に思うのは、あなたが反対しているのは、解釈の押し付けがましくて懲罰的な側面ですか、それとも多くの解釈が理論への独断的な固執から来ているという事実ですか？

A.R.まあ、両方です。そしてもちろん、敵意の解釈に対して、その解釈が正しかったことを証明するかのよな偏執的な反応が生まれやすいのです。

T.L. CATでも手順の記述でそのようなことが起こり得ると思いますか?たとえば、理想化と中傷の間の分裂をすぐに認識できる、ある種の「卵の分割」図の正統性を CAT で開発しているかどうか疑問に思っています。

A.R.卵の図の歴史は、概念がなければ現象を簡単に認識できないことを示す良い例です。卵の図が定式化されるまで、セラピストは分裂があることに気づかないことがよくありました。しかし、概念が存在すると、認識できるものに限界が生じるため、継続的な理論開発が非常に重要です。私は今、複数の否定的な状態を探す必要性を強調しています。

CAT はオブジェクト関係理論を最大限に活用しており、SDR は断片化と分割について口頭で説明するよりもはるかに明確なイメージを提供し、動機付けられた抵抗と防御の概念から離れています。正確な説明とさまざまな自己状態のイメージを提供することは、多くの患者が州外にいる初めての機会を提供すると思います。その説明を得るために協力することと、自己の地図を持つことの組み合わせが、私たちの最も興味深い貢献だと思っています。

-----  
T.L.おそらく今こそ、「CAT はどの程度分析的であるか」という質問に答えようとする時期に来ているのかもしれない。

A.R.なぜ答えないのでですか？

T.L.そうですね、CAT が精神分析、特に対人関係を強調する発展に大きく貢献していることは明らかです。これが一種の精神分析であるとは言いたくありませんが、CATに関わる私たちの考えは、イギリスの独立派の一

部の人々とそれほど遠くないと信じています。クリストファー・ボラスは、彼の患者のほとんどは自らの破壊的衝動を意識的に認識しており、それによって悩んでおり、欠けていることが多いのは患者の愛と創造性であり、治療において認められる必要がある、と述べたと思います。彼はまた、フロイト派の分析家はコフーティアン、クライニアン、ラカン派、ウィニコット派などであるべきだと述べ、これらのアプローチはそれぞれ限られた視点しかカバーしていないため、精神分析における新しい種類の寛容さを象徴している。相互役割の手順としての射影同定に対する CAT の理解は、この伝統に従うアナリストにとって受け入れられるものであると思います。

私自身の見解は、精神分析的思考は 2 つの主要な領域において CAT にとって不可欠であるということです。1つ目は、幼児期の神秘的な自我の出現であり、これは大人になってからの人間関係への期待に真の関係があると私は感じています。精神分析は言語以前の領域に踏み込み、言語以前の経験の影響を認識する準備ができています。カプセル化された記憶を取り戻すというよりも、初期の経験がどのように空想と組み合わせたり、それがどのように対人関係に影響を与え続けるかを理解することが重要だと私も同意します。分析文献には、これに関する優れたアイデアがたくさんあります。たとえば、他者が変容のプロセスとして経験される、変容対象に関するボラスの概念です。彼は欲望の対象と存在の変容として特定される対象を対比し、この対象の関係の記憶がどのように認知的ではなく実存的なものであるかを、強烈な感情的経験に基づいて指摘しています。私は今、この考え方が非常にわかりやすく、心理療法士に対する患者の期待を理解するのに役立つと感じています。長期にわたる精神分析では、初期の経験を思い出すことが可能かもしれません。CAT では、これは患者の生活に対するそのような期待の影響を説明することほど重要ではありません。

分析理論に関連して CAT がその理論を明確にする必要があると私が考えるもう 1 つの分野は、認識の修正が実際にどのように変化を生み出すかについての説明です。この点について、アナリストと認知療法士の間には理解の溝があり、アナリストはむしろ「症状の除去」を軽視しており、認知療法士は「では、対象となったネガティブな思考がなくなったり改善されたりしたら、何が問題なのか」と言っている。?’ CAT にはギャップを埋める真のチャンスがあると思います。私は、感情を生み出す認知/知覚プロセス（意識がアクセスできないことが非常に多い）と、感情が生み出された後の感情状態を理解しようとするプロセスとを区別することが最も重要だと思います。認知療法でよく行われる、感情の原因についての人の理論が実際の原因と同じであるという仮定は正当化されません。繰り返しになりますが、うつ病の人が不快な感情のトーンを持つ否定的な認知に選択的に注意を向けている場合、それはこれらの考えを意識に認める感情の選択プロセスに違いありません。また、誰かが新しい一連の関連付けを構築するのを手助けした場合に、古い関連付けが消えるかどうか不明です。実際、潜在的な連想ネットワークが行動や意識的な思考や感情に影響を与えるという証拠があります。人々は自分自身について利己的な帰属意識を抱く傾向があることが広く知られており、もし否定的な自動思考が単純な認知エラーであれば、それらは確実に消滅するでしょう。これらの帰属は戦略として採用されたに違いありません。ある時点では、別の方法よりも痛みが少ないように思えたに違いありません私たちのせ。彼らは、戦略の元々の理由が無意識のまま、そしておそらく新たな「説明」が適切に設定されたまま、活動を続けています。これらの戦略が子供時代の対象との関係の激しく、時には圧倒的な環境で採用されたと仮定する場合、私たちは深遠な精神力学理論を手に入れることになります。CAT は実際、マンに由来する「中核的な痛み」という概念でこれらの問題に取り組んでおり、現在では再定式化の中で「管理できない感情」としてしばしば言及されており、機能しない手順には歴史的な説明があるという仮定において、説明は治療上重要で

あるということ。私にとって、SDRはその人の歴史の永続性を示す重要な象徴です。古い連想ネットワークは磁気テープのように消去されず、他の「より優れた」プログラムに置き換えられることはありませんが、全体像を変更したり、切り離された部分をリンクしたりすることは可能です。こうした変化がどのように起こるかは複雑な問題だと思います。

私たちは立場を守る「敵」ではないので、あなたとこの会話をするのは興味深いものでした。私がCATを治療モデルとして使用してきた5年間で、分析心理療法から除外されたり、分析心理療法を使用するのが困難な人々であっても、CATが非常に役立つことがわかりました。私は彼らとの関係からCATがどのように機能するかを学びました。私はCATの柔軟性、成長の可能性、そしてすべてを知らないことの重要性を重視しています。心理療法の理論、特に転移と逆転移の扱い方に関しては、防衛メカニズムとしてみなされることもあります。実践を導く一貫した理論は不可欠であると思います。あるいは、あなたが言うように、理論にはセラピストが含まれており、それを保持しています。これは非常に精神的な考え方です。

A.R.この質問に答えるために提起された問題はまだ終わっていないという点では私たち二人とも同意していると思います。この議論が継続的な対話を引き起こすことを願っています。しかし、私はあなたよりも精神分析から距離を置くと思います。

私は、CATの理論は、人格の発達の起源、および個人間と個人間のつながりの概念を精神分析と共有しており、実践に関して、CATは転移とその使用の理解を共有していると言えます。他の多くの点で、CATには大きな違いがあり、確立された精神分析に対する一種の批判を構成していることがわかります。したがって、分析的であるということが、精神分析の実践者や機関による同意や受け入れを意味するのであれば、CATは明らかに資格がありません。私個人としてはこのことを後悔していません。精神分析の考え方が一般心理学の一部となり、この分野の他の研究者の知的挑戦にさらされる時代が来たと思います。そして、精神分析の実践が他の治療法と並んで評価される時代が、実際に到来しました。具体的な方法としては、精神分析の思想や制度が発展してきたものは、思想史の一部として、また社会学や人類学の手法を通じて研究される価値があるが、それらには神聖なものは何もなく、その目的は果たしたかもしれない。

もちろん、CATは分析学の伝統の真の担い手であり、フロイトの特徴である革新と改訂の能力を維持していると主張する人もいます。

PDF ドキュメントを印刷するには、ツールバーの [印刷] ボタンを使用してください。

[3-8](#) ダウンロード